

次期「北陸圏広域地方計画」 骨子(案)の検討に関わる参考資料

はじめに

1. 計画の策定に当たって

◆社会経済情勢変化

【国土を取り巻く時代の潮流と課題】

- ・急激な人口減少、少子高齢化
- ・巨大災害の切迫、激甚化・頻発化する自然災害、インフラ老朽化
- ・新型コロナウイルス感染症拡大に伴う社会的変化(テレワークの普及などの暮らし方・働き方の変化、地方への関心の高まり等)
- ・国際情勢の緊迫化とエネルギー・食料の安定供給

◆法体系等の変化

【国土のグランドデザイン、社会資本整備等】

- ・グランドデザイン2050、国土強靱化基本計画、社会資本重点整備計画
- ・デジタル田園都市国家構想
- ・経済安全保障推進法に基づく基本方針(サプライチェーンの強化、基幹インフラの安定性確保等)

◆北陸圏の強み、弱み、機会、脅威

【北陸圏の現状、社会の変化】

1) 北陸圏の強み

- ①暮らしやすい、子育てしやすい、高校までの学力が高い
- ②都市と農山漁村の共生する地域
- ③豊かな自然、豊富な水、歴史・伝統文化、食文化、雪国の文化
- ④再生可能エネルギー導入ポテンシャルがある
- ⑤伝統産業から先端産業まで日本海側有数の特徴ある世界レベルの工業集積等、多様な産業の集積
- ⑥三大都市圏と等距離の地理的条件、太平洋側のバックアップ機能

2) 北陸圏の弱み

- ①北陸圏では少子高齢化と人口減少が全国平均よりもさらに進行している
- ②若者や女性にとって魅力的な仕事・働く場所が少ない
- ③風水害や土砂災害・豪雪等の厳しい自然環境

3) 北陸圏の機会

- ①デジタル技術の進展(テレワーク、スマート農業等の進展)
- ②北陸新幹線延伸
- ③リニア中央新幹線(三大都市圏が一体化した新たな交流圏の形成、世界と直結する機会の増大)
- ④太平洋側で切迫する巨大地震への対応
- ⑤2050年までにカーボンニュートラルを実現、SDGsが求める幅広い社会的要請

4) 北陸圏の脅威

- ①自然災害の激甚化、気候危機
- ②北陸圏における地震災害リスク

2. 計画期間

◆長期の目標年:2050年

【国土のグランドデザイン等その他社会条件変化】

- ・国土のグランドデザイン 2050の目標

◆計画の目標年:概ね10年間

【国土のグランドデザイン等その他社会条件変化】

- ・中間年だが、全国計画から見直し

3. 計画区域と隣接圏・府県との関係

◆圏域の定義:3県(富山、石川、福井)

【国土のグランドデザイン等その他社会条件変化】

- ・政令の定め

◆隣接府県、隣接圏域との連携

【国土のグランドデザイン等その他社会条件変化】

- ・より日本海国土軸を意識
- ・リニア中央新幹線(品川ー名古屋)開業を踏まえた中部圏との連携

第1章 北陸圏の現状と課題

1. 北陸圏の現状

◆全国平均よりもさらに進む人口減少・少子高齢化

【中間評価や関連指標】

- ・親が孫の面倒をみることのできる環境、地域コミュニティの強さ:高い三世同居率, 地域コミュニティ参加意欲
- ・女性の社会参加がしやすく共働きとなることによる子育てにも有利な経済的なゆとり:高い有効求人倍率, 身近にある雇用の場, 女性の社会参加比率, 女性の就業形態, 共働き世帯比率, 男性の家事等参加は改善途上, 高い世帯収入, 高い持ち家比率
- ・教育等含めた子育てしやすい社会環境:保育所待機園児がほとんどいない幼稚園・保育園, 優れた初等・中等教育, 全国平均や三大都市圏に比べて短い通勤時間(職住近接の確保), 全国に先んじて実施されている企業を巻き込んだ子育て支援施策
- ・一方、北陸圏の人口は全国平均よりも早いペースで減少。年少人口(15歳未満)の人口減少が著しく、将来人口も加速的に減少と推計。
- ・北陸圏は転出超過状況。主に三大都市圏への流出。若者(特に女性)の転出が多い。

【国土のグランドデザイン等その他社会条件変化】

- ・テレワークの普及、転職なき移住、二地域居住等の多様な暮らし方、働き方
- ・東京一極集中の是正

◆都市部の空洞化、地方部の過疎化の進行

【中間評価や関連指標】

- ・快適な居住環境:下水道普及率, 人口1人当たり都市公園面積, 人口1人当たり社会教育費・文教施設投資額
- ・中核都市の接続がもたらす魅力ある暮らし:都市部から半島や中山間地等への雇用・生活サービス・レクリエーション機会の提供, 異なる都市個性を持つ都市間での交流とそれを支える交通ネットワーク
- ・都市部では空洞化、農山漁村では過疎化:北陸圏全体の空き家率は全国よりも高い。過疎地域の人口減少がさらに加速。
- ・交通弱者の移動手段確保が困難:公共交通サービスの維持が困難な状況。
- ・過疎地域における医療サービスの提供が困難:病院や医師の不在。

【国土のグランドデザイン等その他社会条件変化】

- ・北陸新幹線延伸や高速道路等で都市と多自然居住地域の連携
- ・コンパクト化とネットワーク化、小さな拠点、都市の多様性
- ・地域生活圏:人々が安心して暮らし続けることができる圏域、デジタル田園都市国家構想

◆厳しい自然環境と自然災害の激甚化・頻発化

【中間評価や関連指標】

- ・厳しい自然環境がもたらす災害。風水害や土砂災害、豪雪等の対策
- ・洪水、土砂災害、雪害などの激甚化・頻発化

◆食料の安定供給と豊かな食文化を担う農林水産業の担い手不足

【中間評価や関連指標】

- ・農林水産業従事者の高齢化、耕作放棄地の増加
- ・圏域の食料供給力とブランド力の更なる強化:高い食料自給率, 北陸ブランドの構築に向けた様々な取り組み, 農業・漁業・林業生産額

【国土のグランドデザイン等その他社会条件変化】

- ・スマート農林水産業、食品産業

◆高い再生可能エネルギー導入ポテンシャルとゼロカーボンに向けた機運の高まり

【中間評価や関連指標】

- ・高い再生可能エネルギー導入ポテンシャル
- ・北陸圏ではゼロカーボンシティ宣言都市が26都市

◆伝統産業から先端産業まで多様な産業の集積

【中間評価や関連指標】

- ・特徴ある世界レベルの産業の集積:特徴ある産業の集積(富山の製菓・アルミ、石川の組立機械、福井の炭素繊維等)額, 多数の世界ニッチトップ企業・シェアトップ企業群(上記に加え繊維、眼鏡等), 製造品出荷額の多い都市の接続, 中小企業就業者数が減少から増加へ

【国土のグランドデザイン等その他社会条件変化】

- ・地域産業活性化・競争力向上を目指したDX推進、新たなビジネス創出等
- ・農林水産業の6次化

◆三大都市圏から等距離の地理的条件と日本海・太平洋2面活用の要

【中間評価や関連指標】

- ・三大都市圏から等距離にある地理的条件の優位性:中部圏、近畿圏、首都圏との物流量多い
- ・北陸3港(伏木富山港、金沢港、敦賀港)のコンテナ取扱量の堅調な伸び:日本海側の物流の玄関口
- ・災害リスクを契機として高まる産業立地優位性:南海トラフ大地震、首都直下地震等巨大災害へのバックアップ機能強化としての日本海国土軸
- ・交通ネットワーク充実で更なる拡充が見込まれる国内外観光客:国内外からの誘客増加、能越自動車道の開通や東海北陸自動車道、舞鶴若狭自動車道による隣接圏域からの観光客の増加、航空便による海外からの観光客の動向

【国土のグランドデザイン等その他社会条件変化】

- ・東海北陸自動車道、中部縦貫自動車道、能越自動車道、舞鶴若狭自動車道、北陸新幹線等
- ・経済安全保障、サプライチェーンの再編成、分散型国づくり
- ・太平洋ベルト地域の巨大地震等へのバックアップ
- ・リニア中央新幹線開業による地方と世界を直結する交流機会の増大

◆自然、歴史、食文化等豊富な地域資源

【中間評価や関連指標】

- ・多様な観光資源、食文化、農業資源を活かした、多数の観光誘客:武家・宗教文化・能登半島や立山等を始めとした自然や豊かな食や食文化、福井の恐竜等個性ある多彩な観光資源

2. 北陸圏の課題

(1) 多様なニーズに応じた暮らし方・働き方のできる生活環境・雇用環境の形成

◆歯止めのかからない若者の人口流出への対応

【中間評価や関連指標】

- ・若い世代の圏外流出(特に女性)。
- ・経済指標での優位性や高い有効求人倍率は、人口流出に限定的な効果
- ・若者にとって魅力ある就職先が少ない(特に大学生、大学院生)
- ・若者が余暇を楽しむ施設が少ない

【国土のグランドデザイン等その他社会条件変化】

- ・人口減少の中でコミュニティ再構築(スマートウェルネスシティ等)

◆Uターンを迎え入れる多様なニーズに応える生活環境、雇用環境の形成

【中間評価や関連指標】

- ・圏外に流出した若年層のUターン率が低い

【国土のグランドデザイン等その他社会条件変化】

- ・女性の社会参加の促進
- ・女性活躍・男女共同参画の重点方針 2022

◆誰からも「選ばれる地域」となるための多様な価値観を受容する社会の形成

【中間評価や関連指標】

- ・北陸圏では若者、特に女性の転出が多い
- ・若者・中高年などの各世代が交流する機会が必要

【国土のグランドデザイン等その他社会条件変化】

- ・東京一極集中の是正
- ・テレワークの普及、転職なき移住、二地域居住等の多様な暮らし方、働き方
- ・オンライン会議の活用などデジタルの進展に伴って多様化する価値観の受入れ

◆地域の資源・魅力などが学べる環境整備が必要

【中間評価や関連指標】

- ・人口あたりの大学数の多さ、北陸圏内高校卒業者の大学進学先として北陸圏以外が約半数
- ・高校卒業までに、地域に接する機会が少ない
- ・総合学習やシチズンシップ教育、防災教育、脱炭素地域教育、気候変動教育などの機会、対話を通して地域学習・地域課題の取組みを啓発していくことが重要

(2)多様で個性ある地域の持続的発展

◆集約型都市構造への転換と接続した都市の連携強化

【中間評価や関連指標】

- ・富山市、高岡市・射水市、金沢市、福井市を中心とした連携中枢都市圏の形成
- ・北陸新幹線敦賀延伸により北陸圏主要都市において新幹線駅が存在
- ・県庁所在地である富山市、金沢市、福井市を接続型都市圏とした場合の人口は100万人を超える

【国土のグランドデザイン等その他社会条件変化】

- ・北陸新幹線延伸

◆都市部と農山漁村の連携強化による個性と魅力の向上

【中間評価や関連指標】

- ・都市部から半島や中山間地等への雇用・生活サービス・レクリエーション機会の提供,異なる都市個性を持つ都市間での交流とそれを支える交通ネットワーク,圏域内移動では自動車依存度が高い
- ・都市部の空き家・空き地の増加、過疎地域の人口減少の加速、公共交通、医療サービスの低下

【国土のグランドデザイン等その他社会条件変化】

- ・立地適正化計画、地域公共交通計画等
- ・デジタルを活用した地方の社会課題解決
- ・人々が安心して暮らし続けることができる圏域の姿:「地域生活圏」

◆快適で安心できる居住環境の維持・向上

【中間評価や関連指標】

- ・下水道普及率,人口1人当たり都市公園面積,人口1人当たり社会教育費・文教施設投資額,空き家問題

◆半島や中山間地域等での過疎化の進行への対応

【中間評価や関連指標】

- ・半島や中山間地等での人口減少,公共交通の利便性が低い

【国土のグランドデザイン等その他社会条件変化】

- ・多様性を支えるふるさと
- ・二地域居住等の促進

◆将来的な社会基盤施設の維持

【中間評価や関連指標】

- ・インフラ老朽化

【国土のグランドデザイン等その他社会条件変化】

- ・インフラの老朽化等対策

(3) 自然災害への対応と自然環境との調和

◆激甚化・頻発化する自然災害等への対応

【中間評価や関連指標】

- ・気候変動により自然災害が激甚化、頻発化
- ・風水害や土砂災害、豪雪等の対策、自然災害被害額の増加
- ・人口減少、少子高齢化の進む社会における国土の保全管理、インフラの維持、地域防災力の維持
- ・官民連携の防災・減災対策(ハード対策・ソフト対策)の推進

【国土のグランドデザイン等その他社会条件変化】

- ・大規模災害等に備えた格子状骨格道路ネットワークの整備
- ・流域治水プロジェクト
- ・グリーンインフラの推進

◆北陸圏の美しく豊かな自然環境等の保全と脱炭素に向けた対応

【中間評価や関連指標】

- ・新エネルギー発電量は全体に占める割合は少ないが、増加傾向
- ・水資源が豊富な北陸圏
- ・再生可能エネルギーの高いポテンシャル:脱炭素地域づくりの推進
- ・自然豊かな北陸圏における自然と共生する暮らしの歴史・文化:地域循環共生圏^{※1}の推進
- ・脱炭素地域と地域循環共生圏の融合:新しい北陸圏の魅力、価値の創造、人・企業の誘引

【国土のグランドデザイン等その他社会条件変化】

- ・地域循環共生圏(ローカル SDGs)
- ・ESG 投資^{※2}の拡大

※1 各地域が美しい自然景観等の地域資源を最大限活用しながら自立・分散型の社会を形成しつつ、地域の特性に応じて資源を補完し支え合うことにより、地域の活力が最大限に発揮されることを目指す考え方(環境省)

※2 ESG 投資:Environment(環境)、Social(社会)、Governance(企業統治)に配慮している企業を重視・選別して行う投資

(4) 地理的優位性を活かした産業の強化

◆ものづくり産業の集積を活かした競争力強化とイノベーションの取組みの継続

【中間評価や関連指標】

- ・特徴ある産業の集積(富山の製薬・アルミ、石川の組立機械、福井の炭素繊維等)額、多数の世界ニッチトップ企業群(上記に加え繊維、眼鏡等)、企画力と異業種間交流がもたらす時代のニーズやグローバル化への対応、製造品出荷額の多い都市の連接、中小企業就業者数が減少から増加へ、高い進学率に支えられた高学歴な人材、高い高齢者の就業率

【国土のグランドデザイン等その他社会条件変化】

- ・重要物資の安定的な供給確保に関する制度等(経済安全保障推進法)
- ・フューチャーインダストリークラスター
- ・高齢者の社会参加の促進

◆地理的優位性を活かした三大都市圏との連携強化と新産業拠点の形成

【中間評価や関連指標】

- ・北陸新幹線金沢開業、高規格道路等の広域交通ネットワークの充実・強化、関東・中部・近畿との仕事目的の交流、関東・中部・近畿との物流

【国土のグランドデザイン等その他社会条件変化】

- ・北陸新幹線延伸
- ・リニア中央新幹線開業
- ・スタートアップエコシステムの確立、中小・中堅企業のDXなど
- ・巨大自然災害のリスクへの対応

◆農林水産業の魅力向上による産業の強化と担い手確保

【中間評価や関連指標】

- ・高い食料自給率、北陸ブランドの構築に向けた様々な取組み、農業・漁業・林業生産額、耕作放棄地の増加、農業生産等を行う組織経営体の増加
- ・スマート農業、農作業等熟練作業のICT化、ロボット化、新規就農者、女性等参画しやすい環境の構築
- ・就農希望者を支援する施策、組織の育成

【国土のグランドデザイン等その他社会条件変化】

- ・農林水産業の6次化や国際展開、農林水産業従事者の減少
- ・スマート農林水産業、食品産業

◆地域経済の成長を底上げする物流の多様化・高度化

【中間評価や関連指標】

- ・東南アジアの発展、エネルギー需要の変化、調達、輸送ルートの多様化、自然災害の激甚化、頻発化

【国土のグランドデザイン等その他社会条件変化】

- ・カーボンニュートラルポート
- ・巨大自然災害のリスクへの対応

(5) 太平洋側の災害リスクの高まりにともなう本社機能移転等への積極的な対応

◆太平洋側の広域的な災害リスク等を契機として高まる産業立地の優位性の活用

【中間評価や関連指標】

- ・東日本大震災での日本海国土軸の活躍や首都直下地震・南海トラフ巨大地震の発生確率の高まりの中で日本経済活動等の多重性・代替性を担う日本海側の役割の向上、東日本大震災以降の生産拠点や本社機能の北陸への移転等増加、企業立地ニーズに応える北陸

【国土のグランドデザイン等その他社会条件変化】

- ・巨大災害の切迫（首都直下地震、南海トラフ巨大地震の30年以内発生確率は70～80%）
- ・東日本大震災で日本海側が果たした役割

(6) 圏域外の人との多様な関係構築と新しい交流圏の形成

◆北陸圏内の地域資源の磨き上げと新しい観光形態への対応

【中間評価や関連指標】

- ・世界文化遺産である五箇山の合掌造り集落
- ・武家・宗教文化など多数の世界遺産暫定一覧表候補地
- ・能登半島や立山黒部等を始めとした自然、豊かな食や食文化
- ・福井の恐竜等個性ある多彩な観光資源
- ・北陸新幹線金沢開業の効果、開業効果を圏域全体に波及することが課題

【国土のグランドデザイン等その他社会条件変化】

- ・地域への愛着の醸成
- ・新型コロナウイルス感染症拡大に伴う観光形態の変化（ワーケーション等）
- ・北陸新幹線延伸

◆観光需要の回復・高まりへの対応と、交通ネットワークの更なる強化

【中間評価や関連指標】

- ・国内外からの誘客増加、高速交通体系の拡充による隣接圏域からの観光客の増加、国際航空便・国際便乗降客数の増加、高齢者による観光需要の高まり、単独県で組まれる観光ツアー

【国土のグランドデザイン等その他社会条件変化】

- ・北陸新幹線（金沢～敦賀間の 2023 年度末開業と大阪への早期延伸要望の高まり）、高規格道路等の広域交通ネットワークの充実・強化

◆関係人口の拡大

【中間評価や関連指標】

- ・北陸圏と他地域居住者との関係の多様化・深化：特産品の購入、ふるさと納税、地域の農業体験、祭りやイベントなどへの参加
- ・観光の幅の拡大、多様な関係を圏域外の人々と構築

【国土のグランドデザイン等その他社会条件変化】

- ・関係人口、二地域居住、移住

◆新しい交流圏の形成

【中間評価や関連指標】

- ・インバウンド観光におけるリピーターの増加：**三大都市圏**等を入口にして地方へ出向くコースの増加
- ・東京－北陸－京都・大阪の新たな「ゴールデンルート」を構築し、新しい交流圏の形成

【国土のグランドデザイン等その他社会条件変化】

- ・北陸新幹線延伸
- ・2025年大阪・関西万博の開催

第2章 北陸圏の将来像

1. 位置づけ

「立山・白山連峰から流れる清冽な水と日本海の恵みを受け、雪や雄大な景色の中で育まれた暮らし・文化への誇り・愛着を抱きながら、生活の質・産物の魅力の更なる向上と、人々のつながりの一層の強化により、豊かな未来を創造する北陸圏」

このように、厳しくも豊かで多様な自然、魅力ある都市と農山漁村及び活力ある産業が共生した北陸圏において、多様な暮らし方・働き方を実現できる場を提供するとともに、圏域内外の連携と国内外との交流、関係の創出による地域づくりの推進とサプライチェーン再編成等の受け皿となることで、分散型国づくりを先導する日本海国土軸の中核圏域として位置づけ、その役割を十分に果たしていくことを目指す。

これらの概括的な方向性として以下の「将来像」を掲げるとともに、将来像の具体的な状態の達成を目指し、多様な主体が相互に連携して取組みを展開。

- ・圏域内外の連携、国内外との交流、関係の創出
- ・多様な暮らし方、働き方へのニーズと地方への関心の高まり
- ・経済安全保障の観点等からのサプライチェーン再編成
- ・日本海国土軸の中核圏域としての役割

2. 将来像「住み心地・居心地よく、多彩な魅力を活かして躍動する北陸」

【将来像の具体的な状態】

- ・多様な価値観、ライフスタイル、ライフステージに応じた暮らし方ができる。
- ・自然災害に対して安全・安心な暮らしが確保されている。
- ・自分たちが住む地域に愛着が持てる。
- ・就きたい仕事や挑戦したい仕事があり、経済的にもゆとりが持てる。
- ・保育・教育・医療・福祉が充実。買い物や交通に不自由せず時間的制約を受けない。
- ・豊かな自然と人々の暮らしが調和し、地域循環共生圏、脱炭素社会が実現される。
- ・UIJ ターンや二地域居住など、圏域内外の人々から「暮らす場所」「働く場所」として選ばれる。
- ・地域の特産品(農産物、水産物)や食文化の人气が高まる。
- ・技術革新やニーズの先取りにより、北陸で生産する製造品や技術力の評価が高まる。
- ・サプライチェーンの国内回帰や太平洋側で懸念される巨大災害に対する機能分散も含め、生産拠点や本社・サテライトオフィスの適地として多くの企業が進出する。
- ・国内旅行、インバウンド、ワーケーション等の訪問先として多くの観光客が訪れる。
- ・伝統工芸品や観光資源等の価値の認識が高まる。
- ・北陸ファンやゆかりのある人など関係人口が拡大し、つながりが強くなる。 など

第3章 新しい将来像実現に向けた目標

目標1. 北陸圏での魅力ある暮らしの実現～生活環境・雇用環境の充実と安全・安心かつ環境と調和した地域づくり～

①北陸圏の暮らしやすさに更なる磨きをかける新しい暮らし方・働き方の実現

- ・様々なライフステージにおいて北陸圏内での就業や暮らしを選択する若者、女性、子育て世代、シニア世代などが増加し、地域コミュニティが活性化
- ・テレワークやオンライン会議等の普及により、効率的な時間の使い方ができるようになり、「自分時間」がつけられる暮らし方・働き方ができる地域が実現
- ・北陸圏の企業、地域社会などでダイバーシティが推進され、人々がライフスタイルに応じた暮らし方・働き方ができる地域が実現
- ・女性就業率の更なる向上や様々な機会・場面での女性の社会参加が拡大することで、女性が活躍し輝く地域が実現
- ・時間的・経済的にゆとりがある子育て世代が増え、安心して子供を産み育てられる地域が実現
- ・北陸圏で若者が就きたい・挑戦したい業種、職種の企業が増加し、優れた人材が北陸圏に定着
- ・里山里海等の美しい田園風景など北陸圏の資源・魅力などを理解する若者が増え、地域の担い手候補の裾野が広がり、将来も暮らし続ける希望が持てる地域が実現

②都市と農山漁村が共生した豊かさを実感できる暮らしの実現

- ・北陸圏域内における公共交通等の利便性が確保・向上され、各都市内や都市間での流動が促進されることで、富山県、石川県、福井県が連携した都市機能等の相乗効果を発揮
- ・人口減少下においても地域での生活サービスレベル等の低下が抑制されることで、暮らし続けられる地域が実現
- ・歴史ある町並みや美しい景観等の保全のほか、交通事故の減少による安全な移動空間が確保され、北陸圏の優れた住環境を形成
- ・里山里海を活かした田舎暮らしや雪国文化など北陸圏の資源・魅力に興味を持つ人が増え、三大都市圏など他圏域との関係人口の拡大をきっかけに、地域の担い手候補の裾野が広がり、将来も暮らし続ける希望が持てる地域が実現

③自然災害に強い暮らしの実現

- ・地震や風水害・土砂災害など、激甚化・頻発化するあらゆる自然災害に対するリスクが低減され、北陸圏において災害に強い安全・安心な暮らしが実現
- ・短期間の集中的な大雪など北陸圏の特徴的な問題でもある雪害に対するリスクが軽減され、暮らし続けられる雪国が実現

④美しい豊かな自然環境の保全

- ・立山・黒部や白山などの山岳地帯から身近な里山里海までの生態系や健全な水環境が保全されることで、北陸圏の美しく豊かな自然環境を維持・形成
- ・水力や風力のポテンシャルのほか、水素等を活用した新エネルギーの導入や資源循環等により、北陸圏における脱炭素化が実現

目標2. 競争力のある産業の育成～北陸における経済・生産の一層の活性化～

①活力に満ちた農林水産業の形成

- ・農林水産業における生産性の維持・向上による食料の安定供給が実現
- ・第一次産業への興味関心の高まりによる就業者の増加し、農山漁村が活性化
- ・北陸圏が有する優れた特産品や食文化に対する人気が高まり、地域のブランド力が向上

②競争力と魅力がある産業の形成・活性化

- ・北陸圏において中核的な産業等の生産性が維持・向上するとともに、国際的にも競争力が高い産業が集積した地域の形成が実現
- ・イノベーションの創出を生み出す新たな産業の創出が促進し、魅力的な産業が成長する地域が実現
- ・経済効果の高い滞在型旅行の拠点である宿泊施設や観光施設のリノベーション、観光 DX の推進などにより観光産業の収益力を向上し、観光産業の生産性向上と観光の質の向上により、「稼げる地域」が実現

③新たな需要を取り込み地域産業の活性化

- ・他圏域や海外などから北陸圏域内への本社機能・生産拠点等の移転が進むほか、新しい働き方等の普及によるサテライトオフィスやコワーキングスペースが増加し、地域産業が活性化
- ・太平洋側からの本社機能・生産拠点等の移転により、太平洋側で発生が懸念される巨大災害に対するリスクが軽減され、国内企業等の安定的な経済活動が実現
- ・北陸圏で開催される国際会議や展示会等が増加し、北陸圏を拠点とした国際的な交流が活発化

目標3. 日本海側の中枢圏域の形成～日本海側圏域及び太平洋側圏域との連携強化～

①北陸圏の社会経済活動を支える信頼性の高いネットワークの形成

- ・高規格道路のミッシングリンクや幹線道路等のボトルネックが解消することで、信頼性が高く円滑な物流ネットワークが形成
- ・北陸圏域内の港湾・空港における取扱貨物量が増加し、日本海側のゲートウェイ機能を果たすことで北陸圏域内や隣接圏域などの国際競争力が強化
- ・高速交通や圏域内の二次交通によるヒト・モノの流動が促進されることで、太平洋側圏域と連携した経済圏域を形成
- ・日本海側の防災拠点やネットワークの形成が促進されることで、太平洋側で発生が懸念される巨大災害の発生時においても、国全体で社会経済活動の維持及び迅速な復旧・復興が実現
- ・北陸圏域内の港湾におけるエネルギー関連資源の取扱量が増加し、エネルギー受入・供給拠点としての役割が確立

目標4. 交流・関係人口の創出～北陸の魅力を活かした国内外との交流・関係の創出～

①北陸圏の魅力を活かした観光の活性化

- ・広域周遊を含む質の高い魅力的な観光周遊モデルコースの構築、北陸圏の伝統産業や歴史・景観・食文化などの観光資源の磨き上げ、コンテンツの充実化等により国内交流が拡大
- ・文化、自然、食、スポーツ等の分野で、伝統芸能等の特別な体験や自然を活用した体験コンテンツの高付加価値化や海外における北陸圏への誘客イベント等によりインバウンド観光が活性化

②三大都市圏等との新たな交流

- ・充実した広域交通により北陸圏域内の新幹線駅や空港の乗降客数が増加し、交通結節点やその周辺地域において三大都市圏や海外等との新たな交流が実現

③様々な人とつながる北陸圏

- ・里山里海を活かした田舎暮らしや雪国文化など北陸圏の資源・魅力に興味を持つ人や北陸に思い入れのある人の拡大とつながりが強化

第4章 取組みの方向性

1. 目標1の取組みの方向性

(目標1. 個性ある北陸圏の創生～生活環境・雇用環境の充実と安全・安心かつ環境と調和した地域づくり～)

(1) 多様な価値観やライフスタイルに応じた暮らし方・働き方のできる生活環境・雇用環境の拡充・支援

- ◆若者から高齢者みんなが住みやすく、2代、3代と安心して住み続けられる、地域コミュニティの維持・充実、定住化環境整備
- ◆女性の就業・起業や社会参加等就業環境の更なる充実
- ◆安心して出産・育児ができる環境や共働きを可能とする子育て支援の拡充
- ◆多様な働き方のできる雇用環境の支援
- ◆北陸圏での多様な暮らし方・働き方の提案、ダイバーシティへの対応

- ・都市・住宅・福祉・交通政策等連携で子供から高齢者まで生き生き暮らせるコミュニティ再構築
- ・コミュニティ再生拠点として公的住宅団地を活用
- ・新生活支援サービス産業の育成
- ・スマートウェルネスシティ住宅の実現
- ・環境に優しく、高齢者が健康で元気に暮らせ、また若者から高齢者まで社会で活躍できる地域の構築、同時に子育てしやすい多世代循環型地域構築
- ・多様な価値観の尊重と暮らし方、働き方へのニーズ、地方への関心の高まりと、テレワークの普及、転職なき移住、二地域居住等の新たな暮らし方、働き方の推進
- ・リアルでの対面を充実させるテレワークやオンライン会議等のデジタルの活用
- ・女性の更なる活躍と、男性の家庭・地域社会における活躍など(女性活躍・男女共同参画の重点方針2022)
- ・柔軟な働き方や多様な価値観に対応するため、企業における業種、職種の多様化推進とダイバーシティへの寛容な社会の形成
- ・子育て世代及び若者のUIJターン支援、サテライトオフィスの開設支援など

◆ユニバーサル環境整備、雪国の安全・安心な移動空間の形成

- ・地域公共交通の維持・形成や交通結節点等でのバリアフリー化
- ・歩行空間や自転車利用環境の整備
- ・冬季の安全・安心な移動空間の確保(冬季道路情報の提供や官民が連携した歩道除雪等)

◆外国人にも暮らしやすい地域づくりの推進

- ◆優れた人材定着に向けた環境整備の充実、及び多様な就業環境の創出
- ◆若者が地域を知る機会・学ぶ機会を増やし、社会の一員としての力を育む取組みの充実

(2) デジタルを活用した「地域生活圏」の形成

◆中核都市を中心としたコンパクト+ネットワークづくりと接続型都市圏の形成

- ・連携中枢都市圏、公共交通ネットワークの再構築と多様な交通モードの連携強化によるコンパクトシティ形成推進
- ・小さな拠点を核とした集落生活圏の形成、都市コミュニティの再生
- ・一体的な総合交通拠点の整備等を含めたモダルコネクの強化
- ・他の交通モードとの連携によるモビリティサービスの向上
- ・半島や中山間地域等の過疎地域における道の駅への拠点機能の集約
- ・北陸新幹線延伸
- ・富山県、石川県、福井県が並列している地理的特徴を活かして、北陸新幹線等を活用した相互の都市間の連携強化
- ・新幹線駅を核としたビジネスとにぎわいの創出

◆デジタルの活用によるリアルの充実、個性と魅力を満載した地域づくり

- ・デジタル田園都市国家構想をふまえたスマートシティの推進
- ・デジタル活用の推進主体に対する支援や環境整備、人材育成
- ・デジタルをきっかけとしたまちづくりの進展、まちづくりを担う組織の育成
- ・デジタルインフラ整備の推進
- ・デジタル化による行政事務の効率化、行政サービス向上
- ・過疎地域における自動配送など、ICT や AI をフル活用した物流交通マネジメントの強化

◆空き家・空き地対策等人口減少下における環境にも優しい市街地再編や中心商店街の活性化

- ・環境生活都市
- ・里山里海を活かした田舎暮らしや雪国文化などを体験するワーケーションへの空き家の活用
- ・北陸圏の資源・魅力や暮らしやすさを活かした二地域居住の推進

◆北陸圏の暮らしやすさに磨きをかける優れた住環境の整備

- ・田園風景など地域独自景観や、美しく豊かな自然等の幅広い地域資源を活用した魅力ある地域づくり・無電柱化等推進
- ・交通事故の減少を図る生活道路対策の推進

◆デジタルを活用した暮らしやすさのPRによる住みたい、移住したくなる二地域居住、定住化、UIターン

- ・「田園回帰」の促進と田舎探しを支援
- ・シニア世代の元気なうちの田舎暮らしを促進、介護施設不足の東京から充実する地方へ
- ・農山漁村等人口が減少する中、二地域居住に加え、二地域生活・就労の促進による協働人口拡大や外国人雇用の促進
- ・雪国の備え(知恵・技術・力)を広く発信し、雪国での魅力ある暮らしのPR
- ・テレワークの普及、オンラインでの副業・兼業により、住環境等に恵まれた地方での生活と仕事の両立を可能とし、地方移住や二地域居住の促進、関係人口の拡大に向けた取組みを推進

◆デジタルを活用したインフラの長寿命化等対策などインフラマネジメントの構築

- ・インフラの老朽化対策
- ・長寿命化や「インフラを賢く使う」
- ・デジタル技術の活用による社会インフラの整備・維持管理の効率化等の推進

(3)安全・安心な地域づくりに向けて、あらゆる関係者が連携・協働し、ソフト・ハード一体となった防災・減災対策の一層の強化・推進

◆災害に強い国土形成

・地震・津波対策 ・克雪対策 ・風水害・土砂災害・山地災害対策 ・侵食・高潮対策

- ・自然災害による被害発生リスクは依然として高いため、今後とも対策の継続的な実施が必要
- ・あらゆる関係者で取り組む流域治水
- ・短期間の集中的な大雪時における関係機関が連携した計画的・予防的な通行規制や集中除雪、立ち往生車両発生時の迅速な乗員保護

◆減災に資する地域コミュニティを活かした体制の構築

- ・地域コミュニティ(自主防災組織等)の維持、防災訓練等
- ・人口減少や高齢化による地域防災力の低下をフォローするための仕組みの構築(ボランティアの活用等)

◆災害リスクの評価・共有と防災・減災対策の重点化

- ・国土強靱化の推進(「防災・減災、国土強靱化のための5か年加速化対策等」)

◆災害時の応援体制と応急復旧体制の整備

- ・広域的な防災機能を担う「防災道の駅」の推進

◆デジタル技術を活用した的確な防災情報の提供・発信や災害情報の把握・共有による地域防災力の向上

- ・ロボットやセンサー等を駆使して、防災・減災、メンテナンス等におけるイノベーションを創出
- ・土砂災害対策技術や、日本海側特有の冬季季節風による飛来塩分や凍結防止剤散布による塩害などをふまえた橋梁長寿命化技術等
- ・デジタル技術を活用した雨量や水位の予測情報の高度化と水害リスク情報・評価の充実、行政組織間の情報共有の効率化、迅速化
- ・災害時や降雪時において、拠点へアクセスする道路状況について、ICT等を活用した情報発信
- ・短期間の集中的な大雪時における関係機関の情報共有及び、関係機関が連携した外出自粛要請等の事前周知
- ・太平洋側での巨大災害に対しての北陸圏による支援

◆原子力発電所の安全・安心の確保

- ・原子力発電所の安全確保、災害対策の強化、エネルギー教育の充実

(4) 豊かな自然環境の保全と地域循環共生圏の形成、脱炭素地域づくり

◆美しく豊かな自然環境・水循環の保全

- ・ラムサール条約登録湿地等の保全・再生のための取組み強化(生態系ネットワークの形成等)
- ・多様な生物の生息・生育・繁殖環境の保全・再生
- ・自然環境や農業等を支える豊富な水資源や扇状地がもたらす良質な地下水の保全

◆豊かな日本海の保全と管理

- ・関連活動の強化等

◆環境問題の解決をテーマとした環日本海諸国を始めとする東アジア等との国際協調・貢献

- ・国境を越える環境問題への対応

◆脱炭素地域づくり

- ・燃料アンモニア、水素の受入基盤の充実
- ・再生可能エネルギー活用によるエネルギーの地産地消等サブシステム型エネルギーシステム構築
- ・下水汚泥・下水熱の有効活用
- ・スマートシティの推進
- ・2050年カーボンニュートラルの宣言
- ・カーボンマネジメントへのデジタル技術の活用推進(地域循環圏の形成)

◆資源循環と不法投棄対策

◆生活環境の改善

◆エネルギー技術開発の推進

- ・潮流など海洋エネルギー導入の技術開発
- ・EVリユース蓄電池の活用など再生可能エネルギー導入拡大に資する電力安定化技術の開発
- ・豊富な水資源による水力発電や風力発電の活用
- ・エネルギーマネジメントへのデジタル技術の活用推進(地域循環圏の形成)

2. 目標2の取組みの方向性

(目標2. 競争力のある産業の育成～北陸における経済・生産の一層の活性化～)

(1) デジタルの活用等による圏域の食料供給力と地域ブランド力の更なる強化

◆農林水産業に取り組む人材の確保・育成

・スマート農業の体験活動による移住人口、関係人口の拡大

◆食料の安定供給と農山漁村の活性化

・小さな拠点形成等
・地域内経済ネットワークの取組み
・攻めの農林水産業の展開
・育てる漁業等新たな展開
・スマート農業の推進
・持続可能な食料システムの構築

◆バリューチェーンの構築による農林水産業と地域食品産業の活性化

・6次産業化と輸出促進
・港湾を通じた農林水産物・食品の輸出拡大

◆新たな木材需要の創出、木質バイオマスの利用促進等による林業の成長産業化

◆北陸圏の優れた食のブランド化と海外展開の推進

◆北陸圏の優れた食をテーマとした交流・観光の強化

・日本海の海の幸、良質な米・日本酒など食文化のPRによる関連産業の活性化

(2) 産官学及び企業間の連携とデジタルの活用等による競争力強化とイノベーション創出、起業環境の醸成

◆ものづくり産業集積とデジタル技術を活用した産業競争力の強化

◆イノベーションを生む多様な人材・知・産業の集積、産・学・研との連携による起業環境の醸成

・産官学連携でのDX推進による地域課題解決に向けた取組みの推進、クラウドの活用等による研究開発の効率化・生産性向上、起業支援
・公共交通のAI化や自動運転、デジタル技術を活用した同乗システムの推進
・フューチャーインダストリークラスターの先駆的な取組み(例:鯖江の眼鏡産業)
・人・モノ・情報が活発に行き交う新たな価値創造・イノベーションにつなげる魅力あるまちづくり
・スタートアップエコシステムの確立、中小・中堅企業のDX化

◆DXによるビジネスモデルの変化への対応

◆デジタルを活用した魅力ある産業の育成

◆雇用吸収力のある魅力的産業の育成

◆北陸の伝統産業のブランド化・グローバル化

◆観光産業の生産性向上と観光地経営の高度化による「稼げる地域」の実現

◆起業意欲にあふれる人材の育成・定着と誘致、ものづくりの継承

◆活発なNPOの設立・活動等によるコミュニティビジネスの展開

◆北陸圏における地域の関連産業・企業間の連携強化と地域経済循環を促進

(3) 三大都市圏に近接する強みを活かした産業拠点の形成と、国内・海外との経済連携や情報発信の強化

◆きれいな水、良質な地下水、優れた人材・企業、ICに近い等の優位性のPRの推進

- ・豊富な水資源や優秀な人材が多いなど、北陸圏の資源・魅力のPR
- ・広域交通等やICTの充実、安全・安心の充実等による認知度の向上
- ・海外進出企業の国内回帰
- ・北陸圏内での産業集積と内部循環、及びデジタルの活用による地域社会の活性化

◆海外や国内他地域からの企業の製造拠点・本社・研究開発・研修機能等の誘致や人材育成、誘致による地域産業の活性化

- ・北陸新幹線開通により東京経済圏に北陸圏が組み込まれた場合に生じる可能性のある事業所等の撤退やレンタルオフィス等影響へ対応
- ・圏外へ進出した北陸圏創業の企業の北陸圏への回帰の推進
- ・テレワーク、ワーケーション普及を踏まえたサテライトオフィス、コワーキングスペースの設置・勧誘
- ・デジタルの活用による地域の関連産業・企業間の連携強化
- ・リアルとデジタルの適切な組み合わせにより、過疎地域の暮らしの向上とセーフティネットとしてDXを推進、大都市の利便性と地方の暮らし良さを両立
- ・オンライン等を活用した教育・人材育成の推進
- ・北陸新幹線延伸と、リニア中央新幹線開業による巨大経済圏(スーパーメガリージョン)の形成
- ・国際情勢の変化に対応していく企業の支援

◆太平洋側からの本社・研究機能等企业誘致の促進

- ・災害リスクの高まる太平洋側からの企業誘致の受け皿
- ・広域交通等やICTの充実、安全・安心の充実等による認知度の向上

◆産業分野におけるデジタルによる情報発信と、国際展示会や世界各地から研究者等を招いた学術交流、国際コンベンション誘致・開催の推進、体制づくり

- ・留学、ビジネス等海外からの滞在人口を拡大
- ・商業、観光分野におけるデジタルを活用した地域の少量・高付加価値商品やサービスの発信、北陸圏の魅力の発信、集客力の向上

3. 目標3の取組みの方向性

(目標3. 日本海側の中核圏域の形成～日本海側圏域及び太平洋側圏域との連携強化～)

(1) 日本海側圏域及び太平洋側圏域との連携強化のための物流・交通ネットワークの充実

◆道路・鉄道・港湾・空港と産業活動が連携した物流機能の強化

- ・日本海側と太平洋側を連携する高規格道路(東海北陸自動車道等)等、重要な物流ネットワークのミッシングリンク解消や多車線化
- ・ロシア、北東アジアなど、環日本海側諸国との関係について引き続き注視

◆港湾・空港・駅・インターチェンジ等交通結節点の機能強化やアクセス機能の強化等による国内外に展開する信頼性の高い物流、旅客機能の形成・強化

- ・北陸新幹線、高規格道路(東海北陸自動車道等)等広域交通の充実
- ・冬季間でも信頼性の高い物流・旅客を実現するため関係機関が連携した除雪体制の充実
- ・日本海側港湾の機能別拠点化
- ・工業団地などの生産拠点との物流の効率化(ラストマイルの整備、経路上の渋滞対策等)
- ・国内海上輸送網の拡充により、日本海側における内航輸送の中核的な役割を担う

◆海域・空域の安全確保・保安対策

- ・領海、排他的経済水域等を守る

◆太平洋側の安全・安心に貢献する日本海側の防災拠点・ネットワークの強化

- ・災害に強い国土づくりの観点から日本海側と太平洋側の連携、バックアップ機能

◆隣接圏域との連携による広域的防災支援と代替性を発揮する高規格道路や鉄道等の交通機能の強化

◆北陸新幹線、東海道新幹線、リニア中央新幹線が環状で機能する広域ネットワークの強化

- ・北陸新幹線延伸、リニア中央新幹線開業

◆高速交通ネットワークの充実にとまなう圏域内交流を支える二次交通の充実

◆エネルギー受入・供給拠点やネットワーク機能の強化

- ・リダンダンシー確立と日本海国土軸形成に向けたエネルギー供給基地やパイプラインの整備推進
- ・海外産天然ガス貯蔵における枯渇ガス田の活用
- ・燃料アンモニア、水素の受入基盤の充実
- ・カーボンニュートラルポート

4. 目標4の取組みの方向性

(目標4. 交流・関係人口の創出～北陸の魅力を活かした国内外との交流・関係の創出～)

(1) 雪国の伝統産業や歴史・景観・食文化等に彩られた地域資源の磨き上げと北陸圏内観光周遊ルートの充実

◆自然・歴史・文化を活かした地域個性の構築と魅力ある観光地の形成

- ・地域住民が誇りと愛着を持ち、活力に満ちた地域社会を実現
- ・デジタルを活用した情報発信

◆伝統的な産業、自然・歴史に培われた雪国の暮らしの継承・発信と新しい雪文化の創造

- ・先人が育んだ雪国文化の保存・継承
- ・雪景色など北陸圏の冬の魅力再発見、雪を楽しむ文化活動の振興

◆受入環境の充実

- ・成熟した旅行層や富裕層に積極的にアプローチし、食、流通、農業、文化等様々な業界にインバウンド推進の担い手を広げた新たな取組みの創出
- ・サイクルツーリズムの推進（ナショナルサイクルルート等における走行環境・受入環境の整備）

◆国内外、隣接圏域との交流充実、広域観光充実

- ・アジア、欧米豪を中心とした旺盛な国際観光需要を取り込み

(2) 北陸新幹線延伸やリニア中央新幹線開業を契機とした圏域内外との新たな交流圏の形成

◆交流に必要な交通基盤、社会基盤整備

- ・北陸新幹線等広域交通の充実
- ・新幹線駅を核としたビジネスとにぎわいの創出

◆国際的な文化・学術・スポーツ交流の推進

- ・国際的なスポーツイベントの誘致、選手の合宿や文化イベントを積極誘致、交流

◆新たな「ゴールデンルート」の形成

- ・北陸新幹線延伸、リニア中央新幹線開業
- ・2025年大阪・関西万博

(3) 様々な機会・手段を駆使した北陸のファンづくり、関係人口の拡大

◆体験型滞在の充実、ワーケーションへの取組み強化、関係人口の拡大

- ・留学、ビジネス等海外からの滞在人口を拡大
- ・グリーンツーリズムや雪国の暮らし、遊び等の体験型観光、ワーケーションを契機とした関係人口の拡大
- ・効果的な情報発信に関する仕組みづくり